



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

VOD-03 「With コロナの時代. 異文化適応能力とインバウンド感染症基礎知識をもって、逃げないプライマリケア外来をするための Tips」

【講師】

山梨 啓友（長崎大学病院総合診療科）

高橋 健介（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野）

清水 真澄（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野）

濱田航一郎（長崎大学病院総合診療科）

松井 昂介（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野）

泉田 真生（長崎大学病院総合診療科）

山内 桃子（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野/

熱帯医学・グローバルヘルス研究科）

杉本 尊史（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野）

赤羽目翔悟（長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野）

Christopher Smith（長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科）

COVID-19 が証明した事実として、感染症のアウトブレイクにおいては、
BioPsychoSocial の全領域で地域の健康問題が発生します。プライマリケア外来で初期対応する医師はどのような知識や心構えが必要でしょうか。渡航者や海外から来日した患者から診察依頼があった際にみなさんは躊躇することはないでしょうか。インバウンド（海外から日本に来る渡航者）は 2018 年には 3000 万人を超え、延期となった東京オリンピック・パラリンピックが開催される時期にはインバウンド感染症は重要になってくることが予想されます。

本セッションの目的はプライマリケア外来でインバウンドへの対応を快くできるようになる最低限の知識や心構えを提供することです。渡航先で体調を崩したときの不安はだれもが経験することだと思います。日本で唯一の熱帯病研究教育機関である長崎大学熱帯医学研究所の臨床医学教室からお届けする Tips をぜひ皆様の診療にお役立てください。